◎実践報告◎

創設10年に向けて …… 躍進！人形劇団マーブ心

人形劇研究会

松本雅美・左東聖人・渡辺美由紀・居倉めぐみ・石﨑唯・石貫綾香・市原友香・井上弥生
岸田紗季・立野有沙・田仲志織・藤元香織・松尾佳代・麻生菜月・梶原美里・阿部幹生
伊東美保・江口みやび・岡内明佳音・小野菜摘・加藤嘉那子・兼子奈央子・川辺さやか
黒澤美樹・児玉美月・添田夏季・都甲優香・鳥羽真純・槇原一樹・御手洗佳穂・森美津希
薬師寺伊織・穴井理佳子・阿部菜月・安部晴菜・諫元莉奈・一野恵莉・宇都宮ゆきの
下鳥恵・関本明歩・三浦葵・矢野晏奈・吉田礼華・大塚桃子・岡松美紗・木下久瑠美
関桃子・大海さくら・友岡菜々彩・堀あやめ・松本真人・御手洗茜・宮川奈央
≪顧問≫初等教育科　高濱　正文

2016年に創設10年目を迎える人形劇研究会“劇団マーブ心（マーブル）”は、まもなく150公演を迎える。この一年、これまで歩んで来た道のりとしての公演において、メンバー一人ひとりがそれぞれに心を動かし、仲間と共に、たくさんの人々を幸せに、そして、自分達が幸せになろうと、“最幸”の人形劇を目指して試行錯誤しながら、育ってきた…

「繋いでいた手を離してくれないほど」
－2015.3.22　戸次の里公演－

２年Ｃクラス　江口みやび

この公演での対象は、認知症のお年寄りの方々でした。練習では、いつも子どもに見せている人形劇を認知症の方々でも分かりやすいように言葉はゆっくり喋り、問いかけの言葉は敬語を使うように心がけ、またどのようなことをしたらより楽しんでいただけるかを考えて台本を変えました。

本番では、やはり反応は少なかったですが、笑顔で見てくれている方や、楽器を使ったり歌ったりする場面で手をたたいてくれる方もいてとても嬉しかったです。劇が終わってからのふれあいでは、お年寄りの方々とペアになり一緒に簡単な手遊びなどをしました。繋いでいた手をなかなか離してくれないほど別れを惜しんでくれたりする方もいて、喜んでくれているのだいうことを実感できました。

私たちにとっては、先輩方が卒団してから初めての公演、また認知症のお年寄りの方々に公演をするのも初めてで、不安もたくさんありましたが、見てくれている方の「ありがとう」の言葉や、職員の方々にもなかなか見せることのないような笑顔を見ることができたというお話を聞いて、本当に嬉しく私たちの人形劇は子どもだけでなくお年寄りの方々にも笑顔を届けることができるのだという自信になりました。

「初公演…大きな意味のある公演」
－2015.6.3　別府大学附属幼稚園公演－

２年Ｂクラス　麻生　菜月

４月。新１年生が研究会に入団し、後輩であり仲間になりました。そんな私達が最初に取り組んだのが別府大学附属幼稚園である初公演でした。本年度初めての公演であるので私達８代目と新１年生である９代目にとって大きな意味のある公演になるとそう思いました。

私は、人前に立って話をするのが苦手でした。そんな自分を変える機会だと思い、初公演のリーダーに立候補しました。初公演を成功させたいという気持ちもありましたが、なにより初めて公演を体験する１年生に楽しんでもらい、研究会を好きになって欲しいという想いが強くありました。そのために練習のスケジュールを考える時に、一人一人がきちんと自分の役割を持って取り組むことができるようにしました。何をしていいか分からない時間がないように計画したり、２年生にも先輩として責任感が持てるよう１年生をまとめるリーダーをしてもらいました。

初公演のリーダーは、悩むことが多く上手にできたと思えることは少なかったです。ですが、初公演が終わったときに「すごく楽しかった」という言葉を聞いて、やっと自分がリーダーをして良かったと思うことができました。
みんなの笑顔がとても眩しかったです。

「自分もそういう保育者になれるように」
－2015.7.23－　すぎのこ幼稚園夕涼み会公演

１年Ｂクラス　阿部　菜月

私はすぎのこ幼稚園の夕涼み会に参加しました。その日は、これまで頑張ってきた、ミュージックパペットショーを子どもたちに楽しんでもらうだけでなく、夕涼み会の運営をサポートすることもさせて頂きました。

私が担当したのはパズルの絵を完成させたら、お菓子をプレゼントするという役割でした。パズルには小さい子から小学校低学年まで難易度を変えてできるものがありました。子どもたちが自分の力でできるように、「同じ形のとこを見つけてみて、角を合わせてみようか」等の声かけを子どもたちでも分かるように意識していましたが、とても難しかったです。しかし、「できた！」と笑顔で完成したパズルを見せてくれる子どもたちがとても可愛いかったです。また、先生方は園児だけではなく、遊びにきた小学生にも声かけをしていて、子どもの意欲を高めるような声かけや観察力など視野の広さを学びました。そして、自分もそういう保育者になれるように日々努力しようと感じました。

「感動して自然と涙が出てきました」
－2015.7.25－　恵の聖母の家公演

１年Ｃクラス　大海さくら

私は恵の聖母の家の公演に行くまであまり施設に行ったことがなかったので、初めは障がいを持つ方と関わるのは不安でいっぱいでした。その施設には、手や足が不自由で寝たきりの方や喋れない方など様々な障がいを持っている方がいました。身体を動かすことが不自由なのに、人形劇を楽しそうに見ながら、一緒に歌ったり踊ったりしてくれました。ふれ合いの時間では、人形や手作りの楽器を持っていくと笑顔を見せてくれたり、触って楽しんでくれたりしていました。最初は不安で仕方がありませんでしたが、

一生懸命身体を動かし、笑顔を見せて貰い、自分自身も積極的に話そうと思い、たくさんの方とお話させてもらいました。最後に代表の方がお礼の挨拶をしてくださったのですが、一生懸命に話す姿に感動して自然と涙が出てきました。

この公演を通して障がいを持つ方は毎日を懸命に生きていることを感じ、元気や笑顔を届けることを目的に公演をした私たちも元気をもらい生きることの大切さを考え直す機会となりました。

日々、人形劇を創る中でいい作品を完成させる事も目標ですが、公演において、様々な人の生き方を知り、人と関わる事で得られる温かさや人を想いやる心に繋がっていくということを感じることができた公演でした。

「本当にすごい…確実に力がついている」
－2015.7.29－ 三佐っこわいわい広場公演

2年Cクラス　石貫　綾香

みさっこわいわい広場での公演は、初めての「ミニシアター」の公演でした。2年生しか参加できないという少ない人数の状況の中で子どもたちに楽しんでもらえるのか、新しく創った物語はちゃんと伝わるのかとても不安でした。そのため、どうやったら楽しんでもらえるかを考え、みんなで話し合いながら練習を重ねました。

本番では予想以上に子どもたちの人数も多く驚きました。まず、ミニシアターでは子どもたちが、思っていた以上の反応をしてくれ、とても嬉しかったです。そして、レクでは、子どもたちの近くに行き、触れ合いながら音楽に合わせて一緒に楽しむことができました。しかし、予想していた以上に時間が余ってしまい、急遽プーさんの人形を使ったマジックや手遊びなどを行いました。この時、わたしは「2年生は本当にすごい」、「力が確実に付いている」、と思いました。そしてわたしももっと頑張らないとといけないと改めて感じました。

子どもたちと、歌ったり、最後はでっかいゴジラを踊ったりしました。その時の子どもたちの笑顔はほんとに楽しんでいるようでした。私は、とても嬉しかったし今までしてきたことは全く無駄なことじゃなかったと、再確認できた公演でした。

「子ども達の笑顔は、私たちにとっての幸せ」
－2015.8.12－　臼杵保育園公演

1年Cクラス　木下久瑠美

臼杵保育園の公演は、1、2年生で初めて作った作品を披露する公演でした。保育園はまだ新しく木で作られており、とても綺麗な印象でした。練習時間が少なかったのですが、子どもたちの反応もよく成功することができました。公演までの時間も無駄にせず、それぞれのミュージックパペットショーや導入、中継ぎごとに心配なところは練習をしました。私は、音響をしたのですが、練習のときも合わせるのが難しく苦労しましたが、先輩や友達が目を合わせて合図をしてくれたおかげで、タイミングがわかるようになりました。本番では、舞台の裏にいる私たちにとって子どもたちの表情は見えませんが、笑っている声が聞こえるととても嬉しくなります。触れ合いの時間も設けてもらい、子どもたちが近くで触れるように人形をもっていくとニコニコとした笑顔になり、私自身も笑顔になることができました。

子どもたちの笑顔は、私たちにとって幸せな

ことであり、とてもやりがいを感じます。ひとつひとつの役には意味があり、子どもたちのためにどんな風にすればいいのか、考える力や責任感を身に付けることができました。

「マーブルの絆、縦のつながりの大切さ」
－2015.8.26－　浄願寺保育園公演

1年Bクラス　矢野　晏奈

浄願寺保育園の公演は、2年生が実習期間のため、1年生だけの公演であり、そのうえお泊りをして次の日も連続で公演をしました。1日目は5、6歳から小学生、2日目は3歳未満児も対象となっており、それぞれ年齢に合わせて劇の内容を少し変更させるのがとても大変でした。練習当初は、入学してから日が浅かったため、1年生同士でも遠慮することが多く、なかなか意見が出ませんでした。何度か話し合いをする中で、悪いところや、良いところをお互いに指摘しあって練習する中で、1年生の横のつながりが少しずつできてきました。また、園に連絡して当日の確認、練習計画を立てるなど、普段気づかない間、先輩方にやってもらっていたことがたくさんあったのだと分かりました。公演当日は緊張しましたが、先輩からの激励の電話や、みんなで円陣を組み、お互いに声かけをしていると自然と緊張もなくなり、公演は無事に成功することができました。

そして、保育実践にも参加させてもらいました。0～1、2歳児は1人遊びをしている子が多く、3、4、5歳児は友だちと遊ぶ姿が多く、それぞれ年齢によって遊び方にも違いがあることが分かりました。

今回の公演で、子どもと長くふれあい、年齢によっての遊び方、子どもの気持ちの表現の仕方、保育士の対応などたくさん学ぶことができました。そして、練習の時から心配して、声をかけてくださる先輩がたくさんいて、マーブルの絆、縦のつながりの大切さを改めて感じました。

「一人一人が緊張感をもって自分の役割を」
－2015.9.27－　パークプレイス大分公演

1年Bクラス　安部　晴菜

初のパークプレイス公演では、昼の部と夕方の部において、違う演目で2公演行わせていただきました。普段、保育園や幼稚園、施設等で公演を行うことが多い私たちですが、パークプレイスでの機会をいただいたおかげで、日頃は観せることのできない家族や友達にも観に来てもらえることができました。劇の演目は子ども向けに加えて、最近の流行りのお笑いを劇中に入れてみたりして、大人の方にも楽しんでもらえるように工夫しました。また、本番のステージを視察に行ったリーダーからのアドバイスを受け、前に出る人は目の前だけでなく、上や周りにもお客さんがいることを想定し、練習のときから上や周りを見ることを意識したり、動きなどの動作も大きくすることを心がけました。本番では、呼び込みやステージ上でのリハーサルを行っていると段々とお客さんが集まり、予想以上に昼も夕方もたくさんの方に足を運んでいただきました。パークプレイスという場所で行えたことで、より臨機応変に動くことや一人一人が緊張感をもって自分の役割を果たし、本番に臨むことができました。来年度もパークプレイスでの公演依頼をいただいたのでより前進してみんなでいい劇を作っていきたいと思います。

「物事を深く考え、実践する力」

－2015.9.27－ 渡町台小学校創立40周年公演

２年Ｃクラス　市原　友香

渡町台小学校では40周年式典で人形劇をさせていただきました。455人という大勢の子どもの前で人形劇をするのは初めてだったので、これだけ多くの子ども達に楽しんでもらう為、知恵を絞り工夫をこらしました。

普段の保育園や幼稚園で行う劇を小学生向けに変更し、練習を重ねました。例えば少し難しいクイズを劇のなかに入れるなど小学生の興味、関心をそそるようなネタを考えました。私達は常に対象者や、状況に応じ劇を考え直しています。それぞれの環境で求められることを捉えて反映することにより、物事を深く考え実践する力が身につきました。私はこの事が保育に繋がっていくのではと考えています。毎年同じ行事の流れ、同じ環境、同じ声かけをするのであれば保育者としては簡単で都合の良いことです。しかし、自分達の援助により子ども達が何を感じ、どのような成長をしたのか、また、それは何故か、そこから次はどうすれば良いのかまでを考えることで子どもにとって最善の保育をすることができると思います。私が研究会を通して学んだことは必ず保育に活かすことができると思います。その中でも渡町台小学校の公演は子どものことを考え、学びの深い公演になりました。

「終わったときに感じる達成感は
とても大きかった」

－2015.9.27－　わくわくフェスティバル公演

２年Ｂクラス　岸田　紗季

わくわくフェスティバルで行う人形劇は、子どもだけではなく、学生や先生方にも見てもらえる機会であるため、どのようにしたら見てくれる人全員が楽しんでもらえるかを考えながら、物語やクライマックスの仕掛けを考えました。15分という短い人形劇でしたが、毎晩21時半まで練習をしました。より良い人形劇を創るため、一度納得した場面でも何度も練習をして改善を繰り返しました。今年度は、わくわくフェスティバルの実行委員になるメンバーが多く、全員で揃って練習する時間はあまりありませんでした。しかし、それぞれの場所で頑張っている仲間の姿を見ることで、互いに刺激を受け、辛いときにも支え合って活動することができました。困難は多かったですが、本番のときに幕の後ろにも聞こえてくる子どもたちの声や、その後、プレゼントした光るブレスレットを毎晩大事に腕にはめて寝ている子どものエピソードを聞き、喜んでもらうことができたと感じました。

私は、昨年のわくわくフェスティバルを見てとても大きな公演だと感じ、リーダーをしないかと誘われたときには迷いましたが、思いきって頑張ってみようと思い、リーダーをすることを決意しました。実際にこの期間は悩むことが多かったですが、終わったときに感じる達成感はとても大きかったです。

「妥協せず　一生懸命に…」

－2015.12.6－　アミュプラザ大分公演

２年Ｂクラス　立野　有紗

いつもの人形劇だけでなく子どもたちに人形作りをしてもらうワークショップも行いました。ワークショップは初めてで、どんな風に準備し、

進めていったら子どもたちに喜んでもらえるのだろうと私達は意見を出し合いました。また、屋外での公演ということもあり天候の関係により人形劇、ミニシアター、ワークショップの準備の３つを同時進行していかなければならなく、とても苦労することも多かったです。しかし、団員が一致団結し、役割分担をしたり、授業の少しの空き時間でも練習や準備を行ったりしました。当日はどのくらいのお客さんが来て下さるのか不安でしたが、私たちの予想をはるかに超える数のお客さんが見に来てくださり嬉しく思いました。ワークショップでは小さい子どもから中学生の子どもまで来てくださり、思い思いの人形を作ることができていたと感じました。自分で作った人形を楽しそうに遊ぶ姿、大切そうに持って帰る姿を見た時、妥協せず一生懸命準備してきて本当によかったと思いました。ミニシアターも行い、練習してきたものを全て見せることができ、子どもたちやお客さんの笑顔が沢山見ることのできた公演になりました。

「頑張った人にしか見えない景色が…
私はその景色をきっと一生忘れない」

第八代団長 ２年Ｄクラス　松本雅美

私たちは２年間、人形劇の研究会活動を通して“人”として大きく成長することができました。「なんだか雰囲気が楽しそう」「この先輩たちの仲間になりたい」そんな気持ちで入ったこの人形劇研究会劇団マーブル。「けこみ」と呼ばれる舞台から、人形劇の物語作り、人形や小道具まで全て手作りでします。その上で、心を込めた作品ができ、それをたくさんの子どもたちや、高齢者の方々、障がいを持った方に公演という場で披露させて頂きました。その際、たくさんの子どもたちの笑顔を見て、また、高齢者の方々にとっては私たちが笑顔の種となりました。たくさんの人たちの笑顔を見た瞬間に「あぁ、この為にやってきたんだ。やってよかった。」と感じることができ、それを共に頑張った仲間と共有した時に、大きな感動に繋がるのだと思いました。115公演目からスタートした３月。学校生活との両立や、一人ひとりの気持ちの差、そして、これまでの先輩方が築き上げた歴史をここで閉ざすわけにはいかないというプレッシャーを抱え、仲間同士でぶつかり合ったり、涙を流しあったりしました。その中で、辛くなった時に、頑張った人にしか見えない景色を見ることが出来ました。私はその景色をきっと一生忘れないと思います。その景色を見せてくれたたくさんの方々、最高の仲間、そして最幸の恩師に感謝しています。私の学生時代の宝物となった「劇団マーブ心」。本当にやってよかったです。